

子宮頸がん予防接種について

子宮頸がんについて

子宮頸がんは子宮の入り口にできるがんで、近年は若年女性に多く発生し、20～30 歳代の女性に発生するがんのうちで、第1位を占めています。日本では年間約 10,000 人の女性が発症し、約 2,700 人が死亡しているといわれています。

発がん性の HPV（ヒトパピローマウイルス）に感染することが主な原因といわれています。

子宮頸がんの初期は自覚症状がほとんどなく、症状が現れた時には、がんが進行していることがあります。ワクチンで HPV 感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変を早期発見し、早期に治療することで、子宮頸がんの発症や死亡の減少が期待できます。

HPV（ヒトパピローマウイルス）とは

HPV は人にとって特殊なウイルスではなく、多くの人が感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。100種類以上の遺伝子型がある HPV の中で、子宮頸がん患者の約 50～70%は HPV16 型と 18 型の 2 種類の感染が原因とされています。HPV に感染しても、多くの場合ウイルスは自然に検出されなくなりますが、一部が数年～十数年かけて前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症します。

予防接種の効果

子宮頸がん予防ワクチンは、接種することによって体内に抗体をつくり、HPV の感染を防止します。現在国内で市販されているワクチンは、3種類あります。詳細は下記表を参考にしてください。

ワクチン名	サーバリックス	ガーダシル	シルガード9	
予防できる HPV の型	16・18 型（主に子宮頸がんの原因）	16・18 型（主に子宮頸がんの原因） 6・11 型（主に尖圭コンジローマの原因）	16・18・31・33・45・52・58 型（主に子宮頸がんの原因） 6・11 型（主に尖圭コンジローマの原因）	
接種方法	筋肉注射 3 回接種	筋肉注射 3 回接種	【初回接種 15 歳未満】 筋肉注射 2 回接種	【初回接種 15 歳以上】 筋肉注射 3 回接種
間隔	① 1 回目 ② 1 回目から 1 カ月後 ③ 1 回目から 6 カ月後	① 1 回目 ② 1 回目から 2 カ月後 ③ 1 回目から 6 カ月後	① 1 回目 ② 1 回目から 6 カ月後	① 1 回目 ② 1 回目から 2 カ月後 ③ 1 回目から 6 カ月後
主な副反応	注射部位の痛み、発赤、腫脹、発熱、倦怠感	注射部位の痛み、発赤、腫脹、発熱、倦怠感	注射部位の痛み、発赤、腫脹、発熱、倦怠感	
ワクチンのサイト	http://allwomen.jp/	http://www.shikyukeigan-yobo.jp/	http://www.shikyukeigan-yobo.jp/	

【留意点】

- ・ 1 回目に接種したワクチンと同じワクチンを 3 回目まで接種してください。
- ・ これらのワクチンで全ての発がん性 HPV の感染を防ぐことはできません。ワクチンの接種だけでなく、定期的に子宮頸がんの検診を受けることが大切です。

持ち物

- (1) 記入済みの予診票（医療機関にも置いてあります）
- (2) 健康保険証などの住所、生年月日が分かるもの
- (3) 母子健康手帳もしくは接種済証